

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104217
法人名	(有)オリエンタルシルバーホーム
事業所名	トータルケアサポート 花みずき
所在地	愛媛県松山市泉町23番地6
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①生活の場でありたいと思いますので自立支援を基本としています
②自立支援とは何をしたいかも自分で選択できる事だと思います
③私たちは可能な限り、又他の利用者様に迷惑がかからない限り、生活や医療の方向性も自己選択していただき、その為に不自由な部分を支援させていただきます。
④音楽・習字・地域学生のボランティア等を誘致し又、外出・外食などの普段家族でされているサービスを取り入れ個々の心身の状態に合った、楽しみのある生活をしていただきたいと思います。
⑤自由であることは家庭と同じ危険も伴い、その点は本人・家族様の了解を得られるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は松山市の中心地に立地し、松山市駅や伊予鉄高島屋にも近いため利便性に優れている。6階建ての建物の2階と3階部分に事業所はあり、上の階にある有料老人ホームの利用者と一緒に行事や外出などを行ない交流をしている。事業所では「自立支援・自己決定」を重視し、利用者と職員が楽しい日常生活が送れるよう支援することを目標にしている。また、利用者や家族の要望に応じて、最期まで安心して過ごしてほしいという思いのもと、看取りにも積極的に取り組んでいる。共用空間の壁には利用者と職員が一緒に作った四季折々の作品が処々に飾られていて、季節を感じるよう工夫されている。各居室は畳と床スペースが半々になっており、利用者の好みで使用している。管理者は日常生活に変化を持たせたいと考え、週1回調理の日やおやつ作りの日を設けて、利用者と一緒に料理を手作りしたり、誕生日に合わせて外食に出かけるなど、利用者が楽しめるよう工夫している。また、別棟に喫茶室があり、レクリエーションやカラオケを楽しんでいる。職員は利用者の笑顔に喜びを感じながら、誠心誠意ケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 トータルサポートケア 花みずき

(ユニット名) グループホーム 花みずき(2階)

記入者(管理者)

氏 名 志摩しずか

評価完了日 平成 27 年 1 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ①各ユニットに理念を掲示し支援の方向性を間違わないよう、ユニット会議等で確認しあっている。 又理念がケアプランに活かされるように話合っている。 (外部評価) 「個別ケア、暖かい環境作り、自立支援、充実した生活を目指す」という開設時に作成した理念を大切に、新しい想いを重ねながら支援に努めている。管理者は「事業所は生活の場であり、利用者に自由な環境の中で暮らしてほしい」と考えており、理念を職員と共有し実践に繋げられるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ①地域との交流は推進会議や地方祭への参加をしている ②町内や、区域の情報を提供して頂き、参加をしていた 26年は雄郡地区の福祉まつりにも参加させて頂きました (外部評価) 地域の民生委員を兼ねる町内会長から情報を得て、日切地藏祭りや地区の運動会などに利用者と一緒に参加し交流をしている。秋祭りには、地域の神輿にが来てくれ、利用者を乗せてくれるなど楽しませてくれている。年2回自主的に事業所周辺の掃除を行うほか、近隣への散歩時には商店街、スーパー、コンビニなどにも買い物に出かけ、地域住民と顔見知りの関係になれるよう努めている。管理者は現在は休止している幼児や児童、高校生、ボランティアとの交流を持てる機会作りを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々、通りがかった方々、電話での相談等で在宅・施設を問わず相談窓口となり必要な情報提供や、包括支援センター・各事業所への紹介や連携、アドバイスをを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ①地域や行政の方々と家族様・職員が一つの場を持てることにより、意見の交換が出来職員へ伝え、改善点を見出して実践している。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町内会長を兼ねる民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では利用者の状況や活動報告を行うほか、事例検討や勉強会を取り入れており、参加者から意見や感想を聞きサービスの向上に繋げている。職員は会議に交代で参加し、議事録を回覧して情報を共有している。現在は会議を別棟の喫茶室で開催しているが、事業所内での利用者の様子を見てもらうため、リビングで開催することも計画している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ①疑問・問題点は随時報告を行い、家族様からの苦情などについても市町村の意見も聞く様にしている。 ②推進会議等を通し日ごろのケアや取り組みについても報告・説明を行い情報提供や疑問点の解決をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者と地域包括支援センター職員が参加し、情報を共有し指導や助言を受けている。分からないことがある場合は、介護保険課や生活福祉課の窓口に出かけ、その都度助言を受け協力して利用者の支援ができるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①身体拘束に関しては全ての職員が理解出来ており、危険性を回避出来ない場合を除いて出来る限りの身体拘束排除を実践している。 ②玄関の施錠は時間外を除いて、していないが各階エレベーターボタンの施錠は時間帯や入居者の状況に応じ使用する場合はある。	
			(外部評価) 拘束はしない方針で、新入職員にも拘束の具体的な行為などの内容を指導している。言葉の拘束の指導をしており、気づいた場合はその都度注意をするようにしている。利用者の安全確保のため、やむをえず拘束にあたる行為を行う場合は、家族の了承を得て検討を重ねながら必要最小限に期間を区切って実施している。建物の構造上、事故防止のためエレベーターにロックをかけており、他の階や外出しようとする利用者には職員がその都度付き添いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ①リーダーミーティングや全体ミーティングを定期的に行い、職員の不安や悩みを出し合い、まず職員の精神的なケアに取り組むことで、より良い介護や支援を目指している。 ②虐待の種類や内容についてはミーティングでの指導やマニュアルをファイルしてある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市町村の介護保険課・生活福祉課・社会福祉協議会・包括支援センター等の情報や指導を受け個々に対応している。 ※現在後見人利用の利用者も居る	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に管理者より説明を行い、必要な場合は持ち帰り再度熟読していただき、質問や意見をお聞きし納得された上で契約書を交わす事になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ①運営推進会議・家族会と管理者の随時行う面談で意見を出せる場がある ②個々の利用者に担当職員を決め意見や質問などが受けられ易くしている。必要な報告は主任・リーダー・管理者に随時行う様にしている。 (外部評価) 家族の面会時には、利用者毎の担当職員から利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。日頃から家族に体調の異変など連絡することが多く、2か月毎に担当者と管理者、看護師等が利用者の様子や意見などを書いた「介護看護報告書」を送付している。長期の利用者の家族とは話しやすい関係もできており、「〇〇してほしい」と率直な意見が聞かれることもあり、対応している。日々の生活の中で利用者から意見が出され、「上から目線であの人きらい」などと聞くこともあり、迅速な改善に努めている。疎遠になっている家族の状況もあり、家族会の再開や運営推進会議への参加を呼びかけるなど、協力して家族と支援できることを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体会議やフロアーミーティングを定期的に行い意見を聞けるようにしている。 (外部評価) 管理者は職員へのメンタルケアの必要性を感じており、働きやすい職場環境づくりのため意見を聞くように努めている。月1回の全体会議で職員の意見も出し合っているが、日頃から管理者は職員に声かけや問いかけを行い、「〇〇が困っている。〇〇をしてほしい」などの意見を聞き、その場にいる職員が集まりその都度話し合いをしている。また、年1回個人面談があり、職員の要望を聞き取ると共に個々の努力実績を評価し助言をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ①一年に1回は勤務評定も行き、努力実績の評価を行い適当と思われる者は待遇の見直しも行っている。 ②年に4～5回の親睦会で管理職を含め職員間のコミュニケーションを図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者やキャリアのある職員がミーティングの中での勉強会による指導を行っているが、外部研修や講師を招いての研修会を行っている（排泄の勉強会・リーダー研修・認知症介護実践者研修等） ※26年度はトライアル雇用で異業種のスタッフを採用し現場研修後実務者研修を受講する予定になっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ①認知症の実践者研修などを通じ、他施設の職員との交流も図れるようにした。 ②管理者は同業事業者と情報交換を行い入退去の相談や協力を行える様にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握し改善出来るようなプランを作成し、経過観察をしながら見直しを行っている。 ②担当者を決め、職員サイドから話かけを行い、不安や孤立感をなくする様にしている。 ③レクレーションや行事への参加も本人様の意思を尊重する	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ①入居に至る経過を十分にお聞きし必要性を理解する ②契約以前の段階で費用や生活の内容ケアの内容等の説明を 行い、納得されるまで話し合いを行う ③医療との連携の状態を説明し家族様自身に主治医や方向性 を決めていただく	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握出来るようにして いる ②事前調査には管理者が介護支援専門員・看護師・主任・介 護リーダーを状態に合わせて参加させ、多様なサービスが説 明できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ①職員全体であっても、担当者であっても花みずきの生活は 介護の場でなく、生活の場であるという理念の指導を行って おり、生活するために出来ない部分をお手伝いする、楽しむ 時は一緒に楽しむ姿勢である様に心がけている。 ②利用者様と職員は人権も同じライン上に居り、一方通行の 支援にならないように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ①利用者の生活や将来について必ず家族参加で話合えるよう にしており、ホームのアドバイスや情報を提供し、家族様に 最終判断をしていただくようにしている。 ②日常の状態の報告を看護師・担当者が中心に定期的に行っ ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ①訪問面会は、本人・家族の拒否が無い限り自由に出来るよ うにしている。(他の入居者に迷惑行為があると思われる方 はご遠慮願っている) (外部評価) 家族の面会時は、居室でゆっくり話せるよう配慮している。 友人が訪ねてくることもあり、家族に確認し快く対応をして いる。職員が送迎し馴染みの美容室に出かけている利用者も いる。利用開始と同時に、馴染みの関係が途切れる利用者も いるが、外出や行事は同じ建物にある有料老人ホームの利用 者と一緒に実施することが多く、利用者同士が親密になれる 支援にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ①自由な空間を理念としているので、無理強いしないで自然な形でお茶やレクレーションに参加して頂き、職員が介在することにより利用者同士の交流が出来るようにしている。 ※時間をかけてお友達同士で行き来できるようになっています。 ③合同で楽しめる行事設定を定期的に作成している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、地域の相談窓口として入居中と変わらずご相談に乗れるようにお話をしています	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ①個別サービスが実施できるように担当者を決めている ②個々の生活や希望などを把握できるようにして成果を担当者が自己評価・リーダー・管理者が評価い意見を述べてサービスに反映できるようにしている (外部評価) 日々の生活の中で、利用者毎の担当者が利用者の思いや希望を聞くように努めている。意向を表現することが難しい利用者には、表情やしぐさから推察するよう努めている。また、聞き取った内容は記録に残し、個別に実現できるよう支援している。誕生日に喫茶店でケーキを食べて祝ったり、にぎり寿司の出前をとったりするなど利用者に喜ばれている。利用者が大声を出すこともあり、何がストレスなどの原因かを確認して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ①家族や知人の訪問時にお聞きする事がある ②利用者様との係わりや会話の中で把握できるようにし、サービスの見直し等に取り入れ、今何がしたいかがあれば可能な限り実現できるようにする	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ①医療とも連携し、看護師・職員が毎日の健康チェックを行い、異常があひ早期発見に努めている。スタッフより管理者・主任・リーダーへの緊急連絡がスムーズに行える様にしている ②担当者は日常の過ごし方の観察を行いレクのシュルイヤ方法について個別のサービスに努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ①家族には日常的に意見を聞き・本人の満足度なども月間個別目標の評価や毎月のモニタリング表で評価しケアプランに反映している。 ②日常のミニカンファレンスや状態の報告等を聞き必要ときはプランの見直しを行っている。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認し、医師や看護師の意見を反映させて介護計画を作成している。利用者毎の担当制を設け、月1回モニタリングを実施して、介護計画の見直しの必要性を検討している。状態の変化のある場合にはその都度カンファレンスを実施し、介護計画の見直しをしている。また、変化のない場合にも3か月に1回カンファレンスを実施している。介護計画は家族の面会時に説明し同意を得るほか、遠方の家族には郵送して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ①24時間の個別記録・業務日誌による個別記録と毎月のモニタリングで評価し実践に活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ①一日の流れの業務マニュアルはあるが、体調・天候・季節等を随時勘案し・優先すべき事柄を臨機応変に行い、行事の導入や、食事や外食の対応をしている ②入浴や日常の生活の中で個々に必要な福祉用具等も家族と話し合いながら安楽な生活が出来る様に心がけている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ①生演奏グループ・有志のボランティアの受け入れを行ってメリハリのあるレクレーションに生かしている ②外出時の同行等家族にも協力を得て社会参加を促している ③お花見は地域の方々や場所の提供を依頼している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ①基本的には本人・家族の希望する医療機関を主治医として いる ②受診時に家族対応が困難な場合は往診を中心とした連携病 院の紹介を行い、その中で決めてもらっている (外部評価) 今までのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援してい る。受診は家族の同行を原則としているが、困難な場合には 職員が受診介助をしている。通院が困難な場合には協力医に よる訪問診療に切り替える利用者が多い。急変時には協力医 と常勤看護師による24時間の協力体制が整えられており、適 切な医療が受けられ安心して生活が送れるよう支援してい る。また、歯科の往診対応もしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ①看護師は非常勤1名を配置し、日常生活の健康管理を行い 家族と向き合い相談を受けながら、24時間対応の医療機関へ の連携を行っている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ①入院先の医療機関及び主治医との連携をとり入院中の状況 や退院後の対処など情報交換が出来るようにし、早期退院が 出来るように努めている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ①入居時に終末期の方針をお聞きしているが、状態変化があ る度に医療・家族・花みずきで話し合いを持ち方向性の確認 を取っている ②重度化した時、終末期を医療機関でなくホームでと希望さ れた場合は24時間体制の医療機関に協力を得て看取りを行 うようにしている (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、入居時に対応できる内容 など利用者や家族に説明し意向を確認している。利用者や家 族と共に、「最期まで事業所で過ごしたい」という希望が多 く、今までに多くの看取りを経験している。途中で意向が変 わる家族もいるため、医師等を交えてその都度話し合いをし ている。看取り支援後には多くの家族から感謝の言葉をも らっている。状態の変化に応じて、協力医と事業所の看護師 等と連携を取り、急変時にも対応可能な24時間体制での医療 連携体制を整えている。職員から不安の声もあるが、管理者 は「いつ何が起きても仕方がない」ということを伝え、不安 の軽減に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ①緊急連絡体制は整えてあり、看護師や医療機関へ連携できるようにしている ②応急処置などについては医療機関にも協力を得てマニュアル化しているが、医療従事者ではない者は許容の範囲で実施する事にしている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ①地域には協力を要請している ②非難の場所は各階に掲示している ③防災訓練は2ヶ月に一度行い、消防関係者の協力も得ている (外部評価) 年2回消防署の立ち会いの下、昼間と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。火災発生時には各階の非常階段の踊り場に避難し消防署からの救出を待つよう指導を受けており、実際に利用者を避難誘導する訓練を実施している。事業所のある建物は耐震構造のため地震など災害発生時には、地域の避難場所として指定を受けており、備蓄品を余分に用意している。また、地区の消防団や消防署員にも建物内部を実際に見てもらい、緊急連絡網の中に入るなど協力体制を整えている。	訓練では実際に利用者の避難誘導をしているが夜間など間に合わないことが想定されるため、実践的な訓練を重ねながら災害発生時に混乱なく避難誘導が行なえる取組みを期待したい。また、地域の消防団組織との協力体制も整えているが、地域の防災訓練に参加するなど、さらなる地域住民との協力体制を構築することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ①カンファレンスは基本別室で行い、フロアでの必要性がある時は具体的な言葉や名前を出さないよう注意している ②排泄時の声かけなども十分に言葉を選んで行うようにしている ③利用者様への呼びかけも基本姓で行うようにし、愛称で呼ぶのは本人様が心地良いと感じられる方に限っている (外部評価) 管理者は職員同士で話す場合は場所を考え大きな声で話し合わないなどの指導を行い、職員は利用者の自尊心やプライバシーを損ねないよう努めている。トイレ誘導時の声かけは、利用者の羞恥心に配慮し他の利用者に聞こえないように気をつけている。個人情報取り扱いにも留意し、外部からの来訪者は家族に確認してから面会してもらう対応をしている。また、利用者と呼ぶ時は過度な馴れ合いにならないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ①食事や排泄、入浴、行事参加など利用者に問いかけながら実施している ②レクリエーションや外出参加は、本人の意思を優先する	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ①週に一度は日常のマニュアルを外し職員が自由に動ける日を設定している ②突発的な状況にも対応し、決まりごとに縛られない支援を心がけている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ①離床するときは更衣・身だしなみの気配りや整容を行ってもらう ②外出時は可能な人は、利用者様に服装など選んでもらいおしゃれを楽しんでもらうようにしている ③理美容は本人様の意思で施設内又は理美容室へお連れする	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ①花みずきは厨房で原型が出来ているため、盛り付けや配膳・片付け等手伝っていただく ②月に4～5度の調理の日やおやつ作りの日は、献立の希望なども取り入れ、利用者参加で調理を楽しむ ③年に3～4回は屋上や施設内でパーティーを開催しオードブルや季節の料理等を楽しんで頂く (外部評価) 栄養士が献立を作成し、6階にある厨房で調理し各ユニットで配膳をしている。週1回調理の日やおやつ作りの日を受け、利用者に手伝ってもらいながら調理をしている。利用者は職員に食事介助をしてもらうなど、会話をしながら食事をしている。管理者は家にいる時よりも楽しめるように考え、誕生日には喫茶店にケーキなどを食べに行っている。屋上で風景を楽しみながら食事をすることもある。クリスマスにはケーキやオードブルで豪華にテーブルを飾ったり、回転寿司に出かけたり出前をとるなど、楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ①食事の形態は個々に合わせている ②食事・水分の摂取量は毎日チェックを行い本人に合わせた状態観察を行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ①食後の口腔ケアは自立・介助ともに全員行う事が出来ている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ①個々に合わせて支援を行っている	
			(外部評価) 車いすのまま使用できるトイレが2か所あり、日中は声かけや誘導をし、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。状態に合わせて、夜間のみオムツを使用したり、ポータブルトイレを使用したりする利用者もいるが、夜間もなるべくトイレで排泄介助を行なっている。また、入院中にオムツを使用していた利用者も、退院するとトイレ誘導などの介助を行うことにより、トイレで排泄ができるようになることも多い。なるべく現状の機能を維持できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ①排泄のチェックは毎日行い、早期に改善が出来るように食生活等で改善出来る工夫をしている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ①体調不良の時以外は随時入浴をしてもらっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は困難である	
			(外部評価) 週2回一人ずつ毎回湯を入れ替え、入浴剤を使いながら気持ち良く入浴することができる。浴槽への移動が困難になった利用者には、建物の6階にある2つのタイプの違う特殊浴槽を利用者のレベルに合わせて使い分け、安心安全に入浴ができるよう支援している。入浴を嫌う利用者には入浴日や時間を代え気分を見計らいながら声かけをする工夫をしている。身体機能の回復に伴い、浴槽をまたげるようになったため個別浴槽で入浴できるようになり、大変喜ばれている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ①個々の時間は自由に使ってもらえるようにしており、休息も希望により自室やリビングで行ってもらっている。 ②夜間は良眠出来るように声かけを行ったり主治医に相談指示をもらっている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ①薬の管理は看護師が行い、全職員に指導しているが専門職でない職員が中途半端な判断をする事を禁じており、必ず主治医や看護師への報告を行うようにしている。 ②担当者は自分の受け持つ利用者の既往症や薬の種類は把握するように指導している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ①個別サービスの実施し、手芸・ゲーム・外出などで楽しめる工夫をしている ②個々の生活や希望などを把握できるようにし日々の楽しみに活かせるように取り組んでいる	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ①買い物や外食、理美容へ出かける等個別サービスケアを行っている ②可能な季節は近隣への散歩や商店街に出かけたりする (外部評価) 暖かい日には近所を散歩したり、近くの商店街に買い物に出かけたりしている。月1回外出の機会を持ち、家族の協力も得て初詣や花見などに出かけている。誕生日には利用者の希望する場所へ外食に出かけ、大変喜ばれている。帰宅願望の強い利用者には、付き添って近所に買い物に行くこともある。建物の屋上は広く、イベントを開催したり散歩をするなど外気に触れながら気分転換をしている。	利用者の重度化に伴い、外出の頻度が減少している傾向にある。地域行事など外出を様々な社会参加の機会と捉え、家族やボランティアの協力体制を得るなど外出できる機会を増やしていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ①院内でのトラブルを避ける為、自室での所持は小銭以外は認めていない。必要時は事務所から随時預かり金が出せる様にしている。 ②近隣への散歩途中や、おやつ衣類の買い物等は希望に応じて所持して頂き、御自分でのお金使用をして頂く	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ①家族の協力を得て可能な利用者は電話を取り次いだり、かけたり出来ているし、家族や友人から本人様にお便りが届く	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ①春夏秋冬の切り替えや行事などに合わせ壁飾りなどに工夫をし季節感を取り入れている ②共通空間は清潔感が保持できるようにしている ③ホーム内の日あたりや温度管理に注意し快適な生活が出来るように努力をしている (外部評価) 6階建ての建物の2階と3階部分を事業所として使用しており、周囲に高い建物がないため陽当たりが良く暖かく、窓からの見晴らしも良い。壁には利用者と職員が一緒に作った四季折々の作品や手作りの大きなカレンダーが飾られている。また、毎日変わる献立表は利用者が見るのを楽しみにしている。別棟にある喫茶ルームにはカラオケが常備され、利用者と一緒に楽しんでいる。また、建物の屋上のベランダから松山城や石手川公園を望むことができ、焼きそばなどを作り食べることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ①季節により屋上で過ごす事が出来る ②自分の時間は自室で自由に過ごす ③リビングでお茶やおやつなどを楽しみながら交流する ③喫茶室（別棟）を用意し、レクレーションやカラオケに使用出来る様になった	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ①家族の協力を得て身の回りに置く物を配慮している ②個々に合わせて動線の空間を工夫し、動き易いようにしている (外部評価) 居室の入口には職員が布で手作りしたかわいい表札があり、ドアを開けても居室内が見えないように暖簾が掛けられている。居室はベッドとエアコン、床暖房が備え付けられ、全室が畳とフローリング3畳ずつの構造で、ベッドの苦手な利用者は畳に布団を敷いて就寝している。利用者は自宅から使い慣れた家具や好みの人形などを持ち込み、个性的で落ち着いて過ごせる部屋となっている。また、小型の仏壇を置いて、毎日礼拝を欠かさない利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ①車椅子で自走出来る人や自力歩行が出来る人が移動し易い様に随所に手すりを設置している。 ②居室内は畳とフローリングがありベッド使用・和室使用のどちらも可能となっている	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104217
法人名	(有)オリエンタルシルバーホーム
事業所名	トータルケアサポート 花みずき
所在地	愛媛県松山市泉町23番地6
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 2 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①生活の場でありたいと思いますので自立支援を基本としています
②自立支援とは何をしたいかも自分で選択できる事だと思います
③私たちは可能な限り、又他の利用者様に迷惑がかからない限り、生活や医療の方向性も自己選択していただき、その為に不自由な部分を支援させていただきます。
④音楽・習字・地域学生のボランティア等を誘致し又、外出・外食などの普段家族でされているサービスを取り入れ個々の心身の状態に合った、楽しみのある生活をしていただきたいと思います。
⑤自由であることは家庭と同じ危険も伴い、その点は本人・家族様の了解を得られるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は松山市の中心地に立地し、松山市駅や伊予鉄高島屋にも近いため利便性に優れている。6階建ての建物の2階と3階部分に事業所はあり、上の階にある有料老人ホームの利用者と一緒に行事や外出などを行ない交流をしている。事業所では「自立支援・自己決定」を重視し、利用者と職員が楽しい日常生活が送れるよう支援することを目指している。また、利用者や家族の要望に応じて、最期まで安心して過ごしてほしいという思いのもと、看取りにも積極的に取り組んでいる。共用空間の壁には利用者と職員が一緒に作った四季折々の作品が処々に飾られていて、季節を感じるよう工夫されている。各居室は畳と床スペースが半々になっており、利用者の好みで使用している。管理者は日常生活に変化を持たせたいと考え、週1回調理の日やおやつ作りの日を設けて、利用者と一緒に料理を手作りしたり、誕生日に合わせて外食に出かけるなど、利用者が楽しめるよう工夫している。また、別棟に喫茶室があり、レクリエーションやカラオケを楽しんでいる。職員は利用者の笑顔に喜びを感じながら、誠心誠意ケアに努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 トータルサポート 花みずき

(ユニット名) グループホーム 花みずき(3階)

記入者(管理者)

氏 名 志摩しずか

評価完了日 平成 27 年 1 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ①各ユニットに理念を掲示し支援の方向性を間違わないよう、ユニット会議等で確認しあっている。 又理念がケアプランに活かされるように話合っている。 (外部評価) 「個別ケア、暖かい環境作り、自立支援、充実した生活を目指す」という開設時に作成した理念を大切に、新しい想いを重ねながら支援に努めている。管理者は「事業所は生活の場であり、利用者に自由な環境の中で暮らしてほしい」と考えており、理念を職員と共有し実践に繋げられるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ①地域との交流は推進会議や地方祭への参加をしている ②町内や、区域の情報を提供して頂き、参加をしている 26年は雄郡地区の福祉まつりにも参加させて頂きました (外部評価) 地域の民生委員を兼ねる町内会長から情報を得て、日切地藏祭りや地区の運動会などに利用者と一緒に参加し交流をしている。秋祭りには、地域の神輿にが来てくれ、利用者を乗せてくれるなど楽しませてくれている。年2回自主的に事業所周辺の掃除を行うほか、近隣への散歩時には商店街、スーパー、コンビニなどにも買い物に出かけ、地域住民と顔見知りの関係になれるよう努めている。管理者は現在は休止している幼児や児童、高校生、ボランティアとの交流を持てる機会作りを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々、通りがかった方々、電話での相談等で在宅・施設を問わず相談窓口となり必要な情報提供や、包括支援センター・各事業所への紹介や連携、アドバイスをを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ①地域や行政の方々と家族様・職員が一つの場を持てることにより、意見の交換が出来職員へ伝え、改善点を見出して実践している。 (外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町内会長を兼ねる民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議では利用者の状況や活動報告を行うほか、事例検討や勉強会を取り入れており、参加者から意見や感想を聞きサービスの向上に繋げている。職員は会議に交代で参加し、議事録を回覧して情報を共有している。現在は会議を別棟の喫茶室で開催しているが、事業所内での利用者の様子を見てもらうため、リビングで開催することも計画している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) ①疑問・問題点は随時報告を行い、家族様からの苦情などについても市町村の意見も聞く様にしている。 ②推進会議等を通し日ごろのケアや取り組みについても報告・説明を行い情報提供や疑問点の解決をしている。 (外部評価) 運営推進会議に市担当者と地域包括支援センター職員が参加し、情報を共有し指導や助言を受けている。分からないことがある場合は、介護保険課や生活福祉課の窓口に出かけ、その都度助言を受け協力して利用者の支援ができるよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ①身体拘束に関しては全ての職員が理解出来ており、危険性を回避出来ない場合を除いて出来る限りの身体拘束排除を実践している。 ②玄関の施錠は時間外を除いて、していないが各階エレベーターボタンの施錠は時間帯や入居者の状況に応じ使用する場合はある。 (外部評価) 拘束はしない方針で、新入職員にも拘束の具体的な行為などの内容を指導している。言葉の拘束の指導をしており、気づいた場合はその都度注意をするようにしている。利用者の安全確保のため、やむをえず拘束にあたる行為を行う場合は、家族の了承を得て検討を重ねながら必要最小限に期間を区切って実施している。建物の構造上、事故防止のためエレベーターにロックをかけており、他の階や外出しようとする利用者には職員がその都度付き添いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ①リーダーミーティングや全体ミーティングを定期的に行い、職員の不安や悩みを出し合い、まず職員の精神的なケアに取り組むことで、より良い介護や支援を目指している。 ②虐待の種類や内容についてはミーティングでの指導やマニュアルをファイルしてある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 市町村の介護保険課・生活福祉課・社会福祉協議会・包括支援センター等の情報や指導を受け個々に対応している。 ※現在後見人利用の利用者も居る	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に管理者より説明を行い、必要な場合は持ち帰り再度熟読していただき、質問や意見をお聞きし納得された上で契約書を交わす事になっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ①運営推進会議・家族会と管理者の随時行う面談で意見を出せる場がある ②個々の利用者に担当職員を決め意見や質問などが受けられ易くしている。必要な報告は主任・リーダー・管理者に随時行う様にしている。 (外部評価) 家族の面会時には、利用者毎の担当職員から利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。日頃から家族に体調の異変など連絡することが多く、2か月毎に担当者と管理者、看護師等が利用者の様子や意見などを書いた「介護看護報告書」を送付している。長期の利用者の家族とは話しやすい関係もできており、「〇〇してほしい」と率直な意見が聞かれることもあり、対応している。日々の生活の中で利用者から意見が出され、「上から目線であの人きらい」などと聞くこともあり、迅速な改善に努めている。疎遠になっている家族の状況もあり、家族会の再開や運営推進会議への参加を呼びかけるなど、協力して家族と支援できることを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体会議やフロアーミーティングを定期的に行い意見を聞けるようにしている。 (外部評価) 管理者は職員へのメンタルケアの必要性を感じており、働きやすい職場環境づくりのため意見を聞くように努めている。月1回の全体会議で職員の意見も出し合っているが、日頃から管理者は職員に声かけや問いかけを行い、「〇〇が困っている。〇〇をしてほしい」などの意見を聞き、その場にいる職員が集まりその都度話し合いをしている。また、年1回個人面談があり、職員の要望を聞き取ると共に個々の努力実績を評価し助言をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ①一年に1回は勤務評定も行き、努力実績の評価を行い適当と思われる者は待遇の見直しも行っている。 ②年に4～5回の親睦会で管理職を含め職員間のコミュニケーションを図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者やキャリアのある職員がミーティングの中での勉強会による指導を行っているが、外部研修や講師を招いての研修会を行っている（排泄の勉強会・リーダー研修・認知症介護実践者研修等） ※26年度はトライアル雇用で異業種のスタッフを採用し現場研修後実務者研修を受講する予定になっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ①認知症の実践者研修などを通じ、他施設の職員との交流も図れるようにした。 ②管理者は同業事業者と情報交換を行い入退去の相談や協力を行える様にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握し改善出来るようなプランを作成し、経過観察をしながら見直しを行っている。 ②担当者を決め、職員サイドから話かけを行い、不安や孤立感をなくする様にしている。 ③レクリエーションや行事への参加も本人様の意思を尊重する	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ①入居に至る経過を十分にお聞きし必要性を理解する ②契約以前の段階で費用や生活の内容ケアの内容等の説明を 行い、納得されるまで話し合いを行う ③医療との連携の状態を説明し家族様自身に主治医や方向性 を決めていただく	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ①事前調査の段階で希望や不安要素を把握出来るようにして いる ②事前調査には管理者が介護支援専門員・看護師・主任・介 護リーダーを状態に合わせて参加させ、多様なサービスが説 明できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) ①職員全体であっても、担当者であっても花みずきの生活は 介護の場でなく、生活の場であるという理念の指導を行って おり、生活するために出来ない部分をお手伝いする、楽しむ 時は一緒に楽しむ姿勢である様に心がけている。 ②利用者様と職員は人権も同じライン上に居り、一方通行の 支援にならないように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ①利用者の生活や将来について必ず家族参加で話合えるよう にしており、ホームのアドバイスや情報を提供し、家族様に 最終判断をしていただくようにしている。 ②日常の状態の報告を看護師・担当者が中心に定期的に行っ ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ①訪問面会は、本人・家族の拒否が無い限り自由に出来るよ うにしている。(他の入居者に迷惑行為があると思われる方 はご遠慮願っている) (外部評価) 家族の面会時は、居室でゆっくり話せるよう配慮している。 友人が訪ねてくることもあり、家族に確認し快く対応をして いる。職員が送迎し馴染みの美容室に出かけている利用者も いる。利用開始と同時に、馴染みの関係が途切れる利用者も いるが、外出や行事は同じ建物にある有料老人ホームの利用 者と一緒に実施することが多く、利用者同士が親密になれる 支援にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ①自由な空間を理念としているので、無理強いしないで自然な形でお茶やレクレーションに参加して頂き、職員が介在することにより利用者同士の交流が出来るようにしている。 ※時間をかけてお友達同士で行き来できるようになっています。 ③合同で楽しめる行事設定を定期的に作成している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、地域の相談窓口として入居中と変わらずご相談に乗れるようにお話をしています	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ①個別サービスが実施できるように担当者を決めている ②個々の生活や希望などを把握できるようにして成果を担当者が自己評価・リーダー・管理者が評価い意見を述べてサービスに反映できるようにしている (外部評価) 日々の生活の中で、利用者毎の担当者が利用者の思いや希望を聞くように努めている。意向を表現することが難しい利用者には、表情やしぐさから推察するよう努めている。また、聞き取った内容は記録に残し、個別に実現できるよう支援している。誕生日に喫茶店でケーキを食べて祝ったり、にぎり寿司の出前をとったりするなど利用者に喜ばれている。利用者が大声を出すこともあり、何がストレスなどの原因かを確認して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ①家族や知人の訪問時にお聞きする事がある ②利用者様との係わりや会話の中で把握できるようにし、サービスの見直し等に取り入れ、今何がしたいかがあれば可能な限り実現できるようにする	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ①医療とも連携し、看護師・職員が毎日の健康チェックを行い、異常があひ早期発見に努めている。スタッフより管理者・主任・リーダーへの緊急連絡がスムーズに行える様にしている ②担当者は日常の過ごし方の観察を行いレクのシュルイヤ方法について個別のサービスに努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ①家族には日常的に意見を聞き・本人の満足度なども月間個別目標の評価や毎月のモニタリング表で評価しケアプランに反映している。 ②日常のミニカンファレンスや状態の報告等を聞き必要ときはプランの見直しを行っている。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認し、医師や看護師の意見を反映させて介護計画を作成している。利用者毎の担当制を設け、月1回モニタリングを実施して、介護計画の見直しの必要性を検討している。状態の変化のある場合にはその都度カンファレンスを実施し、介護計画の見直しをしている。また、変化のない場合にも3か月に1回カンファレンスを実施している。介護計画は家族の面会時に説明し同意を得るほか、遠方の家族には郵送して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ①24時間の個別記録・業務日誌による個別記録と毎月のモニタリングで評価し実践に活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ①一日の流れの業務マニュアルはあるが、体調・天候・季節等を随時勘案し・優先すべき事柄を臨機応変に行い、行事の導入や、食事や外食の対応をしている ②入浴や日常の生活の中で個々に必要な福祉用具等も家族と話し合いながら安楽な生活が出来る様に心がけている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ①生演奏グループ・有志のボランティアの受け入れを行ってメリハリのあるレクレーションに生かしている ②外出時の同行等家族にも協力を得て社会参加を促している ③お花見は地域の方々や場所の提供を依頼している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ①基本的には本人・家族の希望する医療機関を主治医として いる ②受診時に家族対応が困難な場合は往診を中心とした連携病 院の紹介を行い、その中で決めてもらっている (外部評価) 今までのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援してい る。受診は家族の同行を原則としているが、困難な場合には 職員が受診介助をしている。通院が困難な場合には協力医に よる訪問診療に切り替える利用者が多い。急変時には協力医 と常勤看護師による24時間の協力体制が整えられており、適 切な医療が受けられ安心して生活が送れるよう支援してい る。また、歯科の往診対応もしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ①看護師は非常勤1名を配置し、日常生活の健康管理を行い 家族と向き合い相談を受けながら、24時間対応の医療機関へ の連携を行っている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ①入院先の医療機関及び主治医との連携をとり入院中の状況 や退院後の対処など情報交換が出来るようにし、早期退院が 出来るように努めている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ①入居時に終末期の方針をお聞きしているが、状態変化があ る度に医療・家族・花みずきで話し合いを持ち方向性の確認 を取っている ②重度化した時、終末期を医療機関でなくホームでと希望さ れた場合は24時間体制の医療機関に協力を得て看取りを行 うようにしている (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、入居時に対応できる内容 など利用者や家族に説明し意向を確認している。利用者や家 族と共に、「最期まで事業所で過ごしたい」という希望が多 く、今までに多くの看取りを経験している。途中で意向が変 わる家族もいるため、医師等を交えてその都度話し合いをし ている。看取り支援後には多くの家族から感謝の言葉をも らっている。状態の変化に応じて、協力医と事業所の看護師 等と連携を取り、急変時にも対応可能な24時間体制での医療 連携体制を整えている。職員から不安の声もあるが、管理者 は「いつ何が起きても仕方がない」ということを伝え、不安 の軽減に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ①緊急連絡体制は整えてあり、看護師や医療機関へ連携できるようにしている ②応急処置などについては医療機関にも協力を得てマニュアル化しているが、医療従事者ではない者は許容の範囲で実施する事にしている	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ①地域には協力を要請している ②非難の場所は各階に掲示している ③防災訓練は2ヶ月に一度行い、消防関係者の協力も得ている (外部評価) 年2回消防署の立ち会いの下、昼間と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。火災発生時には各階の非常階段の踊り場に避難し消防署からの救出を待つよう指導を受けており、実際に利用者を避難誘導する訓練を実施している。事業所のある建物は耐震構造のため地震など災害発生時には、地域の避難場所として指定を受けており、備蓄品を余分に用意している。また、地区の消防団や消防署員にも建物内部を実際に見てもらい、緊急連絡網の中に入るなど協力体制を整えている。	訓練では実際に利用者の避難誘導をしているが夜間など間に合わないことが想定されるため、実践的な訓練を重ねながら災害発生時に混乱なく避難誘導が行なえる取組みを期待したい。また、地域の消防団組織との協力体制も整えているが、地域の防災訓練に参加するなど、さらなる地域住民との協力体制を構築することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ①カンファレンスは基本別室で行い、フロアでの必要性がある時は具体的な言葉や名前を出さないよう注意している ②排泄時の声かけなども十分に言葉を選んで行うようにしている ③利用者様への呼びかけも基本姓で行うようにし、愛称で呼ぶのは本人様が心地良いと感じられる方に限っている (外部評価) 管理者は職員同士で話す場合は場所を考え大きな声で話し合わないなどの指導を行い、職員は利用者の自尊心やプライバシーを損ねないよう努めている。トイレ誘導時の声かけは、利用者の羞恥心に配慮し他の利用者に聞こえないように気をつけている。個人情報取り扱いにも留意し、外部からの来訪者は家族に確認してから面会してもらう対応をしている。また、利用者と呼ぶ時は過度な馴れ合いにならないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ①食事や排泄、入浴、行事参加など利用者に問いかけながら実施している ②レクリエーションや外出参加は、本人の意思を優先する	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ①週に一度は日常のマニュアルを外し職員が自由に動ける日を設定している ②突発的な状況にも対応し、決まりごとに縛られない支援を心がけている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ①離床するときは更衣・身だしなみの気配りや整容を行ってもらう ②外出時は可能な人は、利用者様に服装など選んでもらいおしゃれを楽しんでもらうようにしている ③理美容は本人様の意思で施設内又は理美容室へお連れする	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ①花みずきは厨房で原型が出来ているため、盛り付けや配膳・片付け等手伝っていただく ②月に4～5度の調理の日やおやつ作りの日は、献立の希望なども取り入れ、利用者参加で調理を楽しむ ③年に3～4回は屋上や施設内でパーティーを開催しオードブルや季節の料理等を楽しんで頂く (外部評価) 栄養士が献立を作成し、6階にある厨房で調理し各ユニットで配膳をしている。週1回調理の日やおやつ作りの日を受け、利用者に手伝ってもらいながら調理をしている。利用者は職員に食事介助をしてもらうなど、会話をしながら食事をしている。管理者は家にいる時よりも楽しめるように考え、誕生日には喫茶店にケーキなどを食べに行っている。屋上で風景を楽しみながら食事をすることもある。クリスマスにはケーキやオードブルで豪華にテーブルを飾ったり、回転寿司に出かけたり出前をとるなど、楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ①食事の形態は個々に合わせている ②食事・水分の摂取量は毎日チェックを行い本人に合わせた状態観察を行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ①食後の口腔ケアは自立・介助ともに全員行う事が出来ている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ①個々に合わせて支援を行っている	
			(外部評価) 車いすのまま使用できるトイレが2か所あり、日中は声かけや誘導をし、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。状態に合わせて、夜間のみオムツを使用したり、ポータブルトイレを使用したりする利用者もいるが、夜間もなるべくトイレで排泄介助を行なっている。また、入院中にオムツを使用していた利用者も、退院するとトイレ誘導などの介助を行うことにより、トイレで排泄ができるようになることも多い。なるべく現状の機能を維持できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ①排泄のチェックは毎日行い、早期に改善が出来るように食生活等で改善出来る工夫をしている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ①体調不良の時以外は随時入浴をしてもらっているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴は困難である	
			(外部評価) 週2回一人ずつ毎回湯を入れ替え、入浴剤を使いながら気持ち良く入浴することができる。浴槽への移動が困難になった利用者には、建物の6階にある2つのタイプの違う特殊浴槽を利用者のレベルに合わせて使い分け、安心安全に入浴ができるよう支援している。入浴を嫌う利用者には入浴日や時間を代え気分を見計らいながら声かけをする工夫をしている。身体機能の回復に伴い、浴槽をまたげるようになったため個別浴槽で入浴できるようになり、大変喜ばれている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ①個々の時間は自由に使ってもらえるようにしており、休息も希望により自室やリビングで行ってもらっている。 ②夜間は良眠出来るように声かけを行ったり主治医に相談指示をもらっている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ①薬の管理は看護師が行い、全職員に指導しているが専門職でない職員が中途半端な判断をする事を禁じており、必ず主治医や看護師への報告を行うようにしている。 ②担当者は自分の受け持つ利用者の既往症や薬の種類は把握するように指導している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ①個別サービスの実施し、手芸・ゲーム・外出などで楽しめる工夫をしている ②個々の生活や希望などを把握できるようにし日々の楽しみに活かせるように取り組んでいる	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ①買い物や外食、理美容へ出かける等個別サービスケアを行っている ②可能な季節は近隣への散歩や商店街に出かけたりする (外部評価) 暖かい日には近所を散歩したり、近くの商店街に買い物に出かけたりしている。月1回外出の機会を持ち、家族の協力も得て初詣や花見などに出かけている。誕生日には利用者の希望する場所へ外食に出かけ、大変喜ばれている。帰宅願望の強い利用者には、付き添って近所に買い物に行くこともある。建物の屋上は広く、イベントを開催したり散歩をするなど外気に触れながら気分転換をしている。	利用者の重度化に伴い、外出の頻度が減少している傾向にある。地域行事など外出を様々な社会参加の機会と捉え、家族やボランティアの協力体制を得るなど外出できる機会を増やしていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ①院内でのトラブルを避ける為、自室での所持は小銭以外は認めていない。必要時は事務所から随時預かり金が出せる様にしている。 ②近隣への散歩途中や、おやつ衣類の買い物等は希望に応じて所持して頂き、御自分でのお金使用をして頂く	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ①家族の協力を得て可能な利用者は電話を取り次いだり、かけたり出来ているし、家族や友人から本人様にお便りが届く	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ①春夏秋冬の切り替えや行事などに合わせ壁飾りなどに工夫をし季節感を取り入れている ②共通空間は清潔感が保持できるようにしている ③ホーム内の日あたりや温度管理に注意し快適な生活が出来るように努力をしている (外部評価) 6階建ての建物の2階と3階部分を事業所として使用しており、周囲に高い建物がないため陽当たりが良く暖かく、窓からの見晴らしも良い。壁には利用者と職員が一緒に作った四季折々の作品や手作りの大きなカレンダーが飾られている。また、毎日変わる献立表は利用者が見るのを楽しみにしている。別棟にある喫茶ルームにはカラオケが常備され、利用者と一緒を楽しんでいる。また、建物の屋上のベランダから松山城や石手川公園を望むことができ、焼きそばなどを作り食べることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ①季節により屋上で過ごす事が出来る ②自分の時間は自室で自由に過ごす ③リビングでお茶やおやつなどを楽しみながら交流する ③喫茶室（別棟）を用意し、レクレーションやカラオケに使用出来る様になった	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ①家族の協力を得て身の回りに置く物を配慮している ②個々に合わせて動線の空間を工夫し、動き易いようにしている (外部評価) 居室の入口には職員が布で手作りしたかわいい表札があり、ドアを開けても居室内が見えないように暖簾が掛けられている。居室はベッドとエアコン、床暖房が備え付けられ、全室が畳とフローリング3畳ずつの構造で、ベッドの苦手な利用者は畳に布団を敷いて就寝している。利用者は自宅から使い慣れた家具や好みの人形などを持ち込み、個性的で落ち着いて過ごせる部屋となっている。また、小型の仏壇を置いて、毎日礼拝を欠かさない利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ①車椅子で自走出来る人や自力歩行が出来る人が移動し易い様に随所に手すりを設置している。 ②居室内は畳とフローリングがありベッド使用・和室使用のどちらも可能となっている	